

明治十丁丑年 暮秋迄丙子年
十月十七日

三巻を讀
忠成 日史

一月 梶川

No.4

所に出頭、警察署からも事情聴取を受けている。

【本文】

大七月一日 晴 大旧五月廿一日

一 木許氏へ宿ス。

一 郷の原戦争。

同 二日 晴。

廿二日

一 木許氏へ宿ス。

一 仁田原ニテ戦争。

同 三日 晴。

廿三日

一 昨日ヨリ佐伯警察署開局ニ付、五月廿五日薩摩乱入ヨ

リ彼レへ面會ニ及ヒ候迄ノ手續書ノ差出候処、官員溝

部某殿より於田淵ノ尋問ノ上、詳細ニ認メ直之式通差

出。宅ニテ慎ミノ指令アリ。

一 謝罪書ニ通差出ス。

一 賊より軍用小銃壹挺分捕ニ逢ヒ候届書壹通ノ差出ス。

分捕ノ次第、尋問無之。

一 楠罷三郎賊ニ誘因致サレ出兵致候手續書ノ壹通差出候

提供、別断尋問等無之。

一 大阪鎮台兵佐伯へ到着アリ。

同 四日 晴。

廿四日

並河 正明

(会員 佐伯市常盤西町)

【解説】

佐伯を退去した薩軍は日豊県境付近で激戦を展開していた。旧城下町佐伯には官軍の兵隊や人夫が続々と上陸して戦線へ赴く兵站基地と化していた。

筆者梶川氏は避難先の池田村(蛇崎)と旧城下町佐伯村を往復する日々が続いていたが、先の薩軍乱入の際に薩軍に面会し小銃一挺を差し出した件について、佐伯警察署に尋問調書・謝罪書二通を提出、後日大分臨時裁判

一重岡辺戦争。

同 二日 晴。

廿五日

一池田村へ幸便アリ。手紙老通昨日之日付ニテ／差出ス。

一重岡辺戦争。

同 六日。

廿六日

一於^{およ}与^わ祢・於^{およ}ず^わ・徳蔵召連レ来る。／夕刻池田村へ帰ル。

一重岡辺戦争。

同 七日。

廿七日

一後三時頃用務所より即刻出頭申来ニ付、出／頭之処、

区裁判所より明八日前八時出頭／有之候様之葉書致見、

直様引取候。

一五月廿五日薩賊乱入之節、軍用洋銃／老挺分捕ニ逢候

届、警察署へ／（一行読めず）

戸長吉垣久助殿へ逢い渡申候。

一重岡辺戦争。

大七月八日午前十時頃 晴曇

大旧廿八日

一大分縣出張、九州臨時裁判所より呼出ニテ／午前八時

書付ヲ以、出頭ス。朝昼、七名一紙／認メ調印モイタ

ス。

一裁判官蔵岡某殿より去ル三日警察署へ／差出候手續書

ヲ以、尋問ニ付、委細手続／書ノ通、相答候上、重々

奉恐入候段、申述候処／控居候様被申聞候ニ付、控居

候処、后刻／御用人より手続書書取ヲ以、委細読聞ケ

ノ上／相違無之哉トノ事ニ付、相違無之旨申述候処／

左候ハバ調印可致トノ事ニ付、則調印イタシ／候処、

臨時裁判所ニ差出候間、宅ニ慎ミ／罷在候様被申聞、

引退申候。

一重岡辺戦争、夜大砲ノ音聞コユ。

同 九日。晴午後二時頃ヨリ雨

廿九日

一重岡辺戦争か大砲ノ響キアリ。

一本許源太夫殿裁判所へ呼出シ出頭ス。

一兵隊（ナゴヤチンダイ）二百名程上陸ノ由伝聞。

一西野村火アリ兵火ニアラズ。

同 十日 曇

三十日

一黒沢村辺戦争ノ由、大砲ノ音キコユ。

一本許氏今日モ裁判所へ出頭。

一夜二入、池田善次郎方へ参宿ス。舟ニテ本許氏同／伴、

同人ハ直様居村へ帰ル。

同 十一日曇 午後三時頃雨雷

小旧六月一日也

一 午前八時頃池田善次郎方出立、徳藏召連レ／船ニテ居宅へ帰ル。曇其外桶ルイ持帰ル。

一 畑草取り日雇兩名雇。一 兵隊三百名程黒沢辺へ出張ノ由承ル。 六日

一 午後五時頃木許源太夫殿方へ参り宿ス。

一 同 十六日 雨 一 蒲江浦の内葛ヲ原・鳩津辺戦争、大砲ノ音アリ。 六日

一 黒沢村内石上辺戦争ノ由、大砲ノ音聞コユ。

一 同 十七日 雨 一 夜分木許源太夫殿方へ参ル。 七日

一 木許御家内午後七時頃帰宅アリ。

一 同 十七日 雨 一 池田村オチヨ来ル、但朝ナリ。 七日

同 十二日 曇

二日

一 黒沢村ノ内ニテ戦争ノ由、大砲ノ音キコユ。

一 同 十八日 雨 一 一守後浦小西久藏来ル、役夫ニテ米播ノ由。 八日

一 木許氏へ昨夜宿、午前八時頃帰宅ス。

一 一池田玉藏来ル。 八日

一 於与祿・一夫、池田村池田善次郎方へ潜居ノ処／午後十時頃帰宅ス。本家御婦様初一同／同行帰宅ス。

一 一カツラ原辺戦争ト承ル、大砲ナシト云。 八日

一 兵隊三百名程上陸ノ由。

一 一守後浦小西久藏来ル、役夫ニテ米播ノ由。 八日

大七月十三日 晴

小旧六月三日

一 黒沢村辺戦争カ、大砲ノ音キコユ。

一 一カツラ原・鳩津辺戦争ト承ル、大砲ナシト云。 九日

一 朝徳藏池田村へ行ク。

一 一河内三郎殿入来、金談アリ。 九日

一 夜二入、木許源次郎殿御入来。

一 一養賢寺へ軍役夫百名程来ル。 九日

同 十四日 晴

四日

一 畑草取り日雇名入レル。

一 一赤松谷辺戦争ノ由、大砲ノ音アリ。 十日

同 十五日 雨

五日

一 富沢理平殿・佐藤増右衛門殿方へ帰ス。

一 一養賢寺ニテ金刀毘羅宮へ参拜。 十日

一 一守後浦坪根松藏来。

一 軸丸友七殿入来。

一 赤松谷辺戦争カ、早朝大砲ノ音アリ。

同 廿一日 晴

十一日

一 河内三郎殿入来。

一 佐藤増右衛門殿方へ参。

一 並河四郎殿使大蔵ノ来。

一 廿六小区用務所より楠罷三郎親族之者出頭ノ候様、午

後三時頃上達来ルニ付、即刻用務所へノ出頭之処、尾

間郡治より楠宅方へ人足百名ノ賊へ随行之見込ヲ以テ

差置レ候間、差支ノ有ノ無申出候様申ニ付、引取り楠

家内ノモノへノ申聞。一ト間ト台所丈ハ家内ノ婦女子

建切ノニ致、住居外ノ間ハ差置レ差支無之旨、同人

へノ又々用務所へ参、相答候。尤根太板ナシ両便所

へノ通行□貸切ノ間少々通行致スノ段、且又ノ屋根損

シ居リ雨漏三ヶ所有之旨、是又ノ断置候。用務所前二

テ並河四郎殿へ面会○○○楠へ行ク。

一 廿六用務所より午後三時頃使来ニ付、出頭之処、当警

察署よりノ守之義有之ニ付、明廿二日午前九時出頭ノ

候様之御達之書、尾間郡治差出候間、彼披見直様引取

一 廿七小区池田村池田善次郎方へオヨ子・オスズノ徳蔵

召連レ家具類取ニ参ル。

一 佐藤増右衛門殿・片岡祖助殿入来。

一 富沢理平殿方へ夜より参ル。伊沢半殿一件ノ申談候。

一 夜より木許源太夫殿方へ参、面会。

一 楠罷三郎方宅へ人夫百名夕刻来ル。

七月廿二日 晴

旧六月十二日

一 警察署より午前九時御呼出ニ付、出頭之処ノ五月廿五

日薩兵乱入之節、小銃壹挺ノ分捕ニ逢候届イタシ候ニ

付、右始末尋ニ付ノ委細申述候処、控居候様被申候ニ

付、控候ノ処、無程引取候而宜敷旨ニ付、引取候。

一 本家へ参ル。

一 丸市尾・赤松谷辺戦争ノ由、大砲ノ音アリ。

同 廿三日 晴

十三日

一 池田村氷川仲蔵来。

一 丸市尾・赤松谷辺戦争ノ由、大砲ノ音アリ。

同 廿四日 雨

十四日

一 右同断

同 廿五日 雨

十五日

一丸市尾・赤松谷辺戦争ノ由。
 一佐藤拙藏入来、廿八小区用務所在職中／出納帳簿之件
 談シ有り。

同 廿六日 晴

十六日

一佐藤拙藏入来、昨日之所ニ記シ有通り／談シ合。
 一守後浦山本オタキ来。

一五月廿日達ス、松原格太郎殿方へ返翰卷封昨／日ノ日

附ニテ今日郵便ニテ出ス。

一商法ノ為メニ藪賢七郎殿ト相談ノ上、境垣根ヲ開キ通
 行ヲ自由ニス。

一河内三郎殿え手紙出ス。

一杉谷戦争ノ由。

七月廿七日 曇

旧六月十七日

一河内三郎殿入来、金談用立候約定スル。

一軸丸翁佑殿入来、金談アリ用立。

同 廿八日 晴

十八日

一河内三郎殿入来、金談アリ。

一武藤要佑殿暑中見舞入来。

一楠氏へ宿ス人足繰替ニテ外へ行、又外より百名来。

同 廿九日 晴

十九日

一オヨ子守後浦山本伊吉方へ便船ニテ参ル。
 一坂本永年殿方へ船損料ニテ貸ス。
 一夜鷺塚氏へ参。

同 三十日 晴

廿日

一サカリ辺戦争。

同 三十一日 晴

廿一日

一浅海井浦夕子来。

(つづく)



招魂所「敵がいの碑」